

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	24	事業名	ごみ啓発事業	担当部課	くらし文化部環境課
------	----	-----	--------	------	-----------

基本情報	総合計画	基本方針	1	万博理念を継承し、自然・環境にこだわるまち	会計	1	一般会計
		分野別項目	2	ごみの減量化・資源化を進める	款	4	衛生費
		施策の進め方	1	ごみの減量化・資源化	項	2	清掃費
	まちづくり行程表	フラッグ	F3	「みどり」～ふるさと(生命ある空間)の風景を子どもたちに～	目	1	清掃費
		政策分類	8	地球にやさしい低炭素社会をつくる	大事業	7	ごみ啓発事業
その他(関係法令、要綱等)	一般廃棄物処理基本計画、資源回収推進に関する奨励金交付要綱、生ごみ堆肥化促進に関する補助金交付要綱、生ごみ発酵用密閉バケツ補助金交付要綱、生ごみ処理機購入費補助金交付要綱						
事業開始の背景、経緯等	昭和42年もえるごみ収集開始、昭和60年資源の分別収集試行開始						

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) ごみ啓発事業として、次のものを実施 ①愛・Nクリーン ②リサイクルマーケット ③コンポスト等購入補助						
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民						
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 5R(リデュース・リユース・リサイクル・リフューズ・リペア)に対する関心を高め、ごみの減量や分別などのマナーの向上を図る。						
	事業を構成する事務事業	①	ごみ啓発事業	拡充	④			
	②			⑤				
	③			⑥				

コスト推移	項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	事業費(A)	千円	予算 決算			3,378 2,571	3,122 3,452	3,303
人件費(B)	千円	決算			5,347	10,521		
総コスト(A)+(B)	千円	決算			7,918	13,973		

成果推移	成果指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	A 家庭系1人1日あたりのごみ排出量 (資源ごみ、集団回収ごみを除く)	g	目標	533	525	516	508	500
			実績	524	504	483	474	
	B 愛・Nクリーン参加者数	人	目標	500	1,000	1,000	1,000	1,100
			実績	1,138	1,002	990	1,104	
C リサイクルマーケット参加者数	人	目標	500	500	500	500	600	
		実績	500	500	400	600		

【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)

A 5Rを推進することで、ごみの減量につなげるため。一般廃棄物処理基本計画に掲げる目標値から算出して設定

B 環境美化に対する意識向上を図り、ごみの減量につなげるため。

C 5Rを推進することで、ごみの減量につなげるため。

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市民の5Rに対する関心は高まってきている。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 家庭系1人1日あたりのごみ排出量の目標値は達成できている。また、愛・Nクリーン、リサイクルマーケットの参加者も増えてきている。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 学生、単身世帯等のごみ減量意識が低いと思われる市民に対しての啓発

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を行うことで、ごみ減量に対する意識を高めていく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 10年程度先には、まちづくり協議会とも連携し、地域による清掃活動やリサイクルマーケットを行い、環境美化とともにごみの減量化・資源化を推進する。

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

		事業名		ごみ啓発事業										
番号	①	事務事業名	ごみ啓発事業		款	4	項	2	目	1	大	7	中	1
事務事業の期間	事務事業開始年度		昭和63年		終了（予定）年度	-								

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか)
	ごみ啓発事業として、次のものを実施 ①愛・Nクリーン ②リサイクルマーケット ③コンポスト等購入補助
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 5R（リデュース・リユース・リサイクル・リファース・リペア）に対する関心を高め、ごみの減量や分別などのマナーの向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
事業費	千円	予算			3,378	3,122	3,303
		決算			2,571	3,452	

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
愛・Nクリーン参加者数	人	目標	500	1,000	1,000	1,000	1,100
		実績	1,138	1,002	990	1,104	
リサイクルマーケット参加者数	人	目標	500	500	500	500	600
		実績	500	500	400	600	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

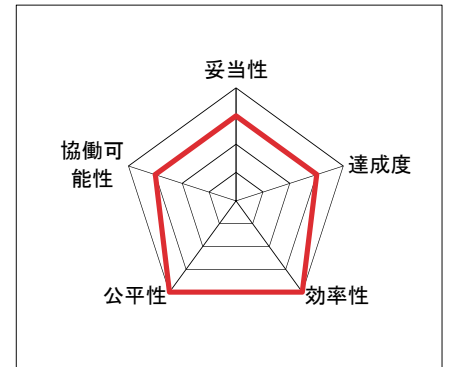
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
市民の5Rに対する関心は高まってきている。

5. 前年度からの改善状況

<参考：前年度の事務事業評価のコメント>
大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を行うことで、ごみ減量に対する意識を高めていく。
(何をどのような状態に改善したのか)
リサイクルマーケットを市民まつりと共同開催することで来場者を増やした。また、キャラクターを使った啓発品を作成し、多くの方に啓発活動を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	4
公平性	4
協働可能性	3



【アピールポイント】

(活動内容でアピールしたいこと、良かったことなど)
リサイクルマーケットを市民まつりと共同開催することで来場者を増やした。また、キャラクターを使った啓発品を作成し、多くの方に啓発活動を行った。

【ウイークポイント】

(活動内容で失敗したこと、改善が必要なことなど)
学生や単身世帯は入れ替わりが多く、環境意識の低いと思われる方への啓発を粘り強く行う必要がある。

7. 今後の方向性

拡充

【コメント】

(改善の方法、今後の具体的展開など)
大学や学生等と連携して、イベントやゲームを通じて子どもや学生、単身世帯を対象とした啓発事業を行うことで、ごみ減量に対する意識を高めていく。